

みゅーじあむ・船橋

令和3年3月



海老ケ作貝塚出土の縄文時代中期の土器のふちについていた人面装飾

第16号

博物館ニュース	[2]
船橋遺跡風景今昔 6 坪井城跡・中井台遺跡	[3]
貝塚、その日そのひ 4 姉妹都市ヘイワード市（カリフォルニア湾）の貝塚	[4-5]
船橋の明治・大正・昭和 伝染病を撲滅せよ！	[6-7]
インフォメーション	[8]

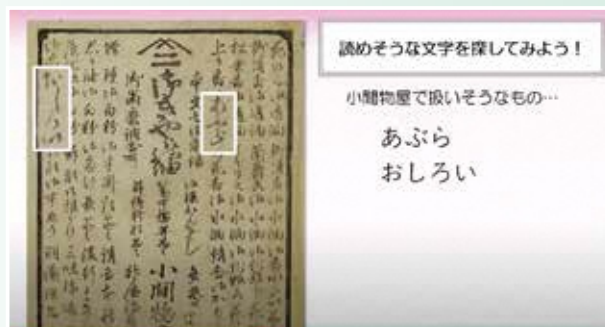
博物館ニュース

郷土資料館 Webで古文書講座

郷土資料館では、「ふなばし生涯学習チャンネル」のYouTube動画と市ホームページを連動させた、オンライン古文書講座を開講しています。この取り組みは、郷土資料館で毎月2回開講していた対面式の古文書講座を、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止せざるを得なくなったことを受けて始めたものです。

第1回「三咲の掛け軸」(令和2年7月15日配信開始)、第2回「紫檀飾棚の中に！」(令和2年12月24日配信開始)では、ひらがなのくずし字を読むコツを、資料にまつわるエピソードとともに紹介しています。特に、「三咲の掛け軸」の動画は、2,000回を超える再生回数(令和3年3月7日時点)で、県外からの反響もありました。

動画は、いずれも5分程度の再生時間です。船橋の歴史に関する資料を取り上げていますので、古文書やくずし字を読んだことがない方でも気軽にご覧いただけます。今後も、数か月に1回のペースで、動画とテキストを配信していく予定です。



紫檀飾棚の中に！

飛ノ台史跡公園博物館 開館20周年記念巡回展 「かわる生活様式!? ～船橋の縄文時代早期～」

縄文時代より前の旧石器時代は、現在よりも寒冷な環境で、人々はその日の糧を得るために獲物を追いかけて土地を転々とする「遊動」的な生活様式を送っていました。その後、縄文時代になると気候が温暖になり、利用できる資源が増えると、人々はここ船橋を「定住」の地として選び、次第に生活様式を変えていきました。

令和2年11月7日(土)から12月6日(日)に開催した開館20周年記念巡回展では、「かわる生活様式」ということで、気候の変化に伴い、住居・調理施設・貝塚・狩猟具・おとしあな 陥穴などが変化していったことを取り上げて展示しました。また、取掛西貝塚より出土した船橋市内最古級のいぐさ 井草式土器を初めて展示し、あわせて20数点の縄文土器を展示することで、時代とともに土器の形が変わっていったことが間近で確認できるようにしました。他にも、子どもたち向けにクイズラリーも行いました。ただクイズに答えるだけでなく、問題に関連した豆知識を読んだり、関連する常設展示を見たりと、興味の幅を広げていました。



巡回展ということで、12月19日(土)から令和3年1月31日(日)までは、郷土資料館に会場を移して展示を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら12月25日(金)までの1週間しか展示ができませんでした。

展示をご覧いただいた方々からは、「船橋に縄文時代の遺跡がこんなに多くあることに驚いた。当時の生活様式が良く分かった」「クイズ形式が良かった。子供も興味を持った。付き添いの親自身もクイズを通し遺跡に触れて、とても良い機会になった」などといった感想をいただきました。

令和3年度以降も新型コロナウイルスの影響が残るかもしれませんが、博物館としてできる限りの準備をして企画展を実施していきたいと考えています。

船橋遺跡風景今昔 6

坪井城跡・中井台遺跡

坪井城跡・中井台遺跡とは

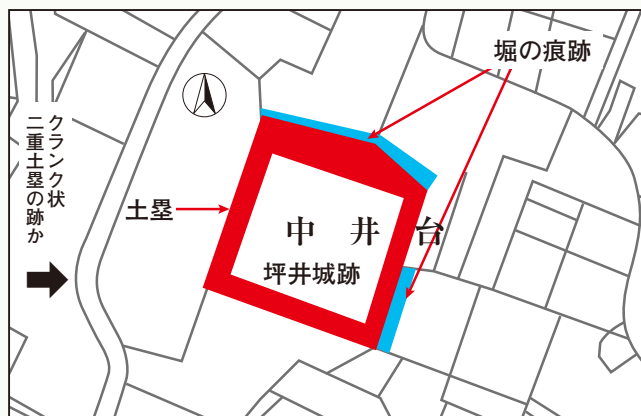
船橋市の北東部、坪井町にあります。現在は東葉高速線船橋日大前駅ができて、新興住宅地となりましたが、駅から少し北の方へ行くと、安養寺や西光寺、子安神社などの寺社や広い畑があり、その近くには旧家が集まる農村の景観が残っています。

かつて一帯の旧小字は「城」といい、この畑のなかに城の土塁(城の土手)や堀が見えていたと伝えられています(高橋他 1959)。また明治36年(1903)の地図には三辺の土塁が描かれています(第1図)。しかし長い年月のなかで土塁はくずれ、堀は地中に埋まってしまい、現在は見えません。船橋市ではこの城の部分の中世の「坪井城跡」とし、その周辺遺跡を「中井台遺跡」と呼んでいます。

これまでに行われた発掘調査の成果

中井台遺跡は宅地造成工事に先がけて、これまでに4地点の発掘調査が行われ、中世(室町時代頃)の坪井城跡の堀や「台地整形区画」(後述)などが見つかっています(第2図)。城の本体はまだ発掘されていませんが、地籍図を参照すると、地割には「口」の字形の土塁や堀の跡が現れていて(第3図)、坪井城は約60m(半町)四方の規模であったと推定できます。実際の発掘調査では幅約6mの堀の一部が見つかりました。

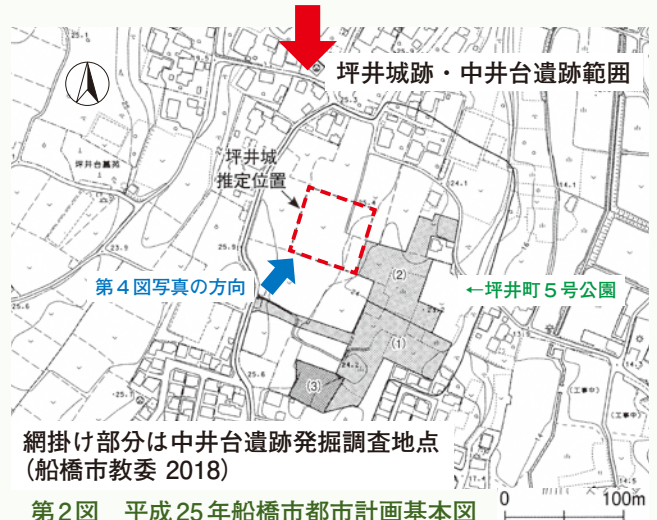
城の周りで発見された「台地整形区画」とは、溝や道路で区画した居住域であり、この中に建物、井戸、地下式坑(穴倉)、墓などがありました。坪井城本体にはこの一帯の有力者である土豪が居住し、城周辺の台地整形区画部分には、その家臣や一族郎党が住んでいたと考えられます。遺物は、中世の陶磁器など14～16世紀を主とする日常生活用品が出土しました。



第3図 地籍図と坪井城跡の痕跡



第1図 明治36年大日本帝国陸地測量部迅速測図



第2図 平成25年船橋市都市計画基本図

このように現在の坪井町の原型となる中世の村の姿が、発掘調査により明らかになってきました。発掘調査後に住宅地となった一角には坪井町5号公園があり、この公園の地下にも中井台遺跡の一部が保存され、文化財説明板が建てられています。(道上 文)

参考文献

- 高橋源一郎他 1959『船橋市史前篇』船橋市役所
- 船橋市教育委員会 2014『中井台遺跡(3)』
- 船橋市教育委員会 2018『中井台遺跡(1・2・4)』



第4図 調査中の坪井城跡(南東から) 船橋市教委2018に加筆

— 姉妹都市ヘイワード市(カリフォルニア湾)の貝塚 —



はじめに

船橋市とヘイワード市は、昭和57年(1982)頃から姉妹都市提携のための書簡の交換を始め、昭和61年(1986)11月7日に姉妹都市として提携しました。令和3年(2021)で姉妹都市提携35周年となります。

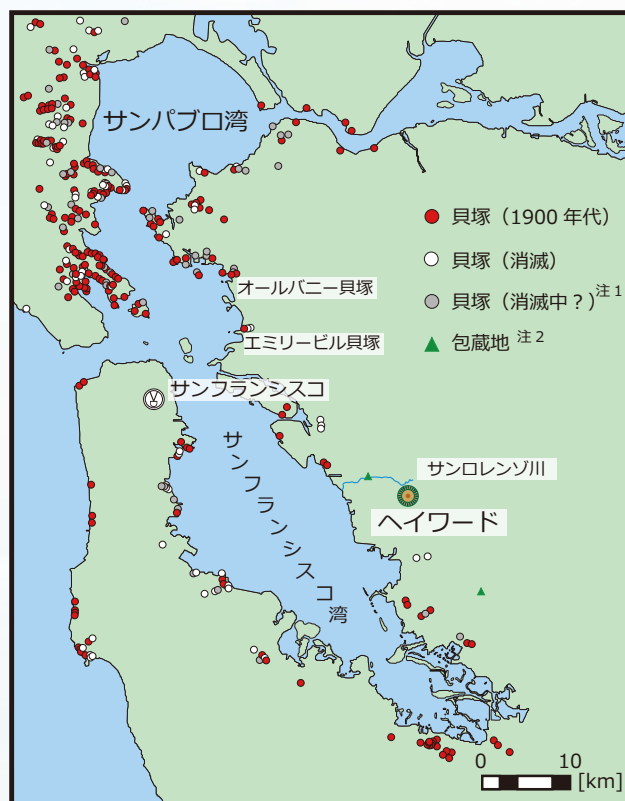
ヘイワード市は、カリフォルニア州中央部、サンフランシスコから約30kmのサンフランシスコ湾東岸に位置し、面積165km²、人口約14.4万人、古くから、湾東岸部の交通の要所として、近年は周辺諸都市を含めた地域・アラメダ郡の商工業・金融・教育等の中核都市として、発展をしています。ヘイワード市の気候は、地中海性気候であり、年間降水量660mm、最高気温33.3℃、最低気温8.9℃(2012年)です。

船橋市とヘイワード市は、大都市のベッタウンとして、人口が急増したことや、湾岸都市であること等、都市の形態や地理的条件が類似しています。また製塩業が営まれたり、巨大地震を経験したり、歴史的にみるとさらに船橋市と類似した点があります。

本稿では、そんな姉妹都市ヘイワード市の位置するカリフォルニア湾における貝塚研究をデンマーク系アメリカ人考古学者ネルズ・C・ネルソン(1875-1964)が1909年に出版した『Shellmounds of the San Francisco Bay Region』を参考に紹介します。

カリフォルニア湾沿岸の貝塚分布

カリフォルニア湾沿岸の貝塚は、ネルソンの調査した1900年代の時点で消失したものを含めると、425地点がありました(第1図、NELSON 1909)。この貝塚には、貝殻よりも土や灰の方が多き墳丘も含まれています。1900年当時においても遺跡の消失が危惧されており、ネルソンは調査をしたようです。この貝塚の分布調査の時点では、サンフランシスコ湾北部とサンパブロ湾の沿岸に貝塚が最も集中しています。近年の調査では、カリフォルニア州と



第1図 1900年代におけるカリフォルニア湾沿岸貝塚の分布
NELSON 1909より、追記・作成。

ニュージャージー州を結ぶ州間高速道路80号線建設に伴う事前調査により、建物などの史跡27地点、貝塚などの先史時代の遺跡39地点が確認されています。この調査の一環でオールバニー貝塚(Albany Hill)の再検討がなされています。

ヘイワード市近郊には貝塚はありません。しかしながら、市北部を流れるサンロレンゾ川中流域に遺跡の包蔵地があったようです。

遺跡の保存

かつてネルソンが危惧した通り、カリフォルニア州内においては、遺跡の存続が危ぶまれています。1973年にカリフォルニア考古学協会が発表した報告によると、カリフォルニア州内の約1,400遺跡が開発のために毎年失われています。報告ではさらに、カリフォルニア州内の遺跡の50パーセントがすでに破壊されていると推定されています(MORATTO 1973)。

このような現状からは、大学をはじめとする考古学に関わる学術団体が積極的に土地利用の意思決定に対して関与する必要性が指摘されています(SAMPSON and HECTOR 2006)。また一方で、近接するボディ州立歴史公園とカリフォルニア州立公園では学術団体主導ではなく、市民参加型の文化資源の保存活動が実験的に行われ、高い成果をあげています(NIRATTO et al. 2018)。

このような姉妹都市が行っている文化財に対する活動は、博物館の運営においても大変参考になります。

飛ノ台史跡公園博物館所蔵のアメリカ大陸出土の石器

博物館に求められる役割として博物館資料の「収集」があります。その収集活動の一環として、市民から資料の寄贈を受けております。飛ノ台史跡公園博物館に移管された資料の中にアメリカ大陸由来の石鏃^{せきぞく}があります(第2図)。この石鏃は、1907～1995年までカリフォルニア州で事業を展開していた百貨店 BULLOCK'Sで購入されたものであり、平成元年度に郷土資料館へ寄贈後、新たに開館した飛ノ台史跡公園博物館へ移管されました。

資料の内訳は、頁岩製の石鏃^{けつがん}14点、メノウの原石1点の計15点です。石鏃のサイズ、基部(根本)の形状などが市内の遺跡から出土する石鏃とは明確に異なっています。

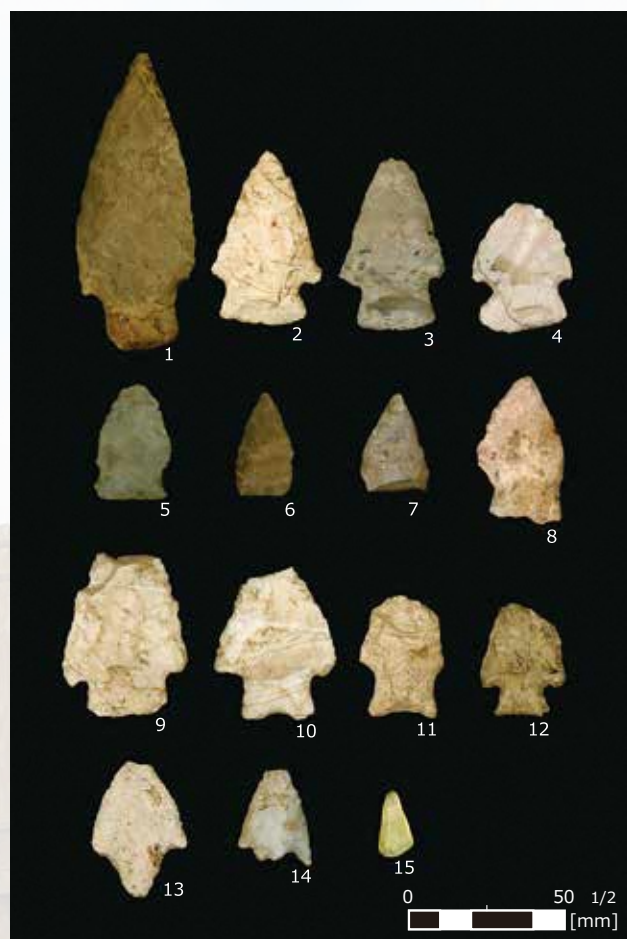
資料の年代は、現在のところ不明ですが、引き続き、寄贈された資料について、博物館の役割である「調査研究」を進めていきます。(畑山 智史)

注1 凡例の説明がなかったため、著者が推定した。

注2 底本の MINOR CAMP SITES を著者が意訳した。

主な参考文献

MORATTO, M. J. 1973 The Status of California Archaeology. Society for California Archaeology Special Publication No. 3. Fullerton, California.
NELSON, N. C. 1909 'Shellmounds of the San Francisco Bay Region' "UNIVERSITY OF CALIFORNIA PUBLICATIONS IN AMERICAN ARCHAEOLOGY AND ETHNOLOGY" Vol.7, No. 4.



第2図 当館が所蔵しているアメリカ大陸出土の石器(No.FTMDC198001)

1～7 石鏃(完形品) 8 石鏃(未完成品)

9～14 使用痕がある石鏃 15 石材(メノウ)

剥離面に土壌が残存していることから複製品ではなく、考古資料と推定される。

LERCARI, N., JAFFKE, D., ABOULHOSN, J., BAIRD, G., GUILLEM, A., 2018 'Citizen Science Archaeology at Bodie State Historic Park' "SAA2018. Digital Heritage Technologies, Applications, and Impacts"
SAMPSON, M. and HECTOR, S. 2006 'SITE PRESERVATION, COMMUNITY ACTIVISM, AND A FUTURE FOR CALIFORNIA ARCHAEOLOGY' "PROCEEDINGS OF THE SOCIETY FOR CALIFORNIA ARCHAEOLOGY" VOL. 19.
船橋市・ヘイワード市姉妹都市提携 25 周年事業実行委員会 2012 『船橋の姉妹・友好都市』

伝染病を撲滅せよ！

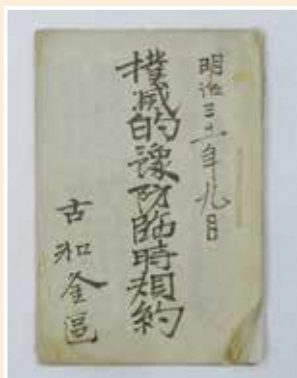
— 古和釜区と豊富村の資料から —

郷土資料館の学芸員である筆者は、令和2年夏から、明治・大正・昭和の船橋市域における伝染病対策についての資料調査を進めています。本稿では、調査の中間報告として、興味深いと感じた2点の資料をご紹介します。

資料1 撲滅的予防臨時規約

(明治31年〔1898〕、古和釜区)

この資料は、半分に折られた7枚の紙の綴りで、伝染病予防のための約束事が、18の^{ひと}が^が書き(簡条書き)で書かれています。そして、この頃の古和釜の世帯数とほぼ同じ51の人名が書かれ、ほとんどに印鑑が押されています。



次に、1・2・17条目を紹介します。

- 一、病毒地はもちろん、健康地といえども、決して交通致すまじき事。(1条目)
- 一、葬祭その他何等の事由あるも、多衆会同して飲食すべからず。殊に当区に至りては、一切飲食致すまじき事。(2条目)
- 一、伝染病の疑なきものといえども、吐瀉物又は之に汚染したる品物を、川泉其の他飲料水を汚す恐れある場所に於て洗濯し、又は投入致すまじきこと。(17条目)

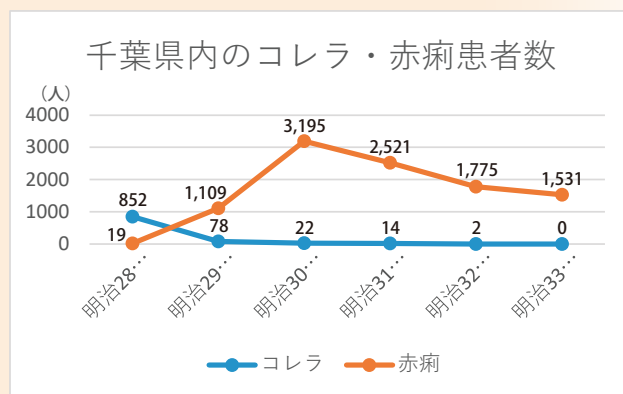
傍線部では、伝染病の疑いがないとされた住民に注意を喚起しています。また、波線部や、本稿で引用していない4条目・5条目における煮沸^{しゃぶつ}していない生水・食物の飲食禁止への言及からは、今とは違う当時の水や洗濯のあり方を感じ取れます。

明治31年当時の「伝染病」とは？

ところで、古和釜の人たちは、どんな伝染病を予

防しようとしていたのでしょうか。

明治31年当時、法定伝染病には、コレラ・腸チフス(腸炎)・赤痢・ジフテリア・発疹チフス・痘瘡(天然痘)・猩紅熱^{しょうこうねつ}・黒死病(ペスト)の8種が指定されていました。特に、明治29年に千葉県内の患者数が激増した赤痢は、明治30年・31年も、感染が収束しませんでした。



川村純一『千葉県伝染病史』(崙書房出版、2004年) 246～249頁による

千葉県は、伝染病予防のための訓令^{くんれい}を、この頃何度も出しています。明治31年9月5日付けの訓令では、赤痢流行を予防するため、衛生組合で規約を設けることを奨励しています。衛生組合は、町村内の区単位で作られる事例があったので、古和釜区が、県の訓令を受けて規約を作った可能性が考えられます。

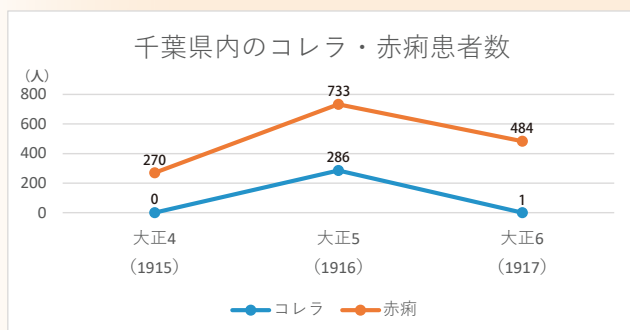
明治30年代の県内で、伝染病予防のための規約を作っていたのは、古和釜区だけではありません。自治体史では、明治30年8月の大山村奈良林(現鴨川市)「赤痢病撲滅的臨時規約」^(※1)、明治33年10月の白井村川井区(現千葉市)「衛生組合理約」^(※2)等が取り上げられています。白井村川井区は、豊富村古和釜区と同じく千葉県千葉郡の一部でした。

古和釜区の規約は、大山村奈良林の規約とかなり似ています。しかし、一言一句を比較すると、完全に同じではないことに気付きます。例えば、大山村奈良林の規約のうち、大勢での会食を禁じる古和釜

区の2条目に対応する箇条を見ると、傍線を引いた、区内での飲食の厳禁への言及がありません。今後、県内の関連資料と比較し、古和釜区の規約の特徴について検討するつもりです。

資料2 ^{これら} 帛列刺病予防撲滅二関スル件 (大正5年〔1916〕、豊富村)

大正5年は、全国で1万人以上がコレラに感染した年です。千葉県でも、8月末から患者が確認されています。



川村純一『千葉県伝染病史』(斎書房出版、2004年) 246～249頁による

現在の船橋市域のうち、古和釜区・八木ヶ谷区などを含む豊富村では、9月20日付けで、千葉郡役所から送付された「コレラ予防二就テ」という注意書きと、その周知を求める通達を、村内の各区長に送っています。そして、約1か月後には、各区長に、下の写真の「帛列刺病予防撲滅二関スル件」という通達を封書で送っています。



県や郡からの通達を踏まえたと考えられる、この資料では、コレラの「予防撲滅」のための取り組みにより、「幾分減退の傾向」は見られるが、地方によって、「殆んど断続的の実況」であると述べられています。そして、陸軍特別大演習や裕仁親王(のちの昭和天皇)の立太子の礼を迎える予定の秋にコレラが流行することへの危機感が示されています。

殊に本県は帝都に隣接し交通頻繁なるを以て、此際防疫上の施設を一層充実にするは勿論、更に一般の衛生思想を喚起し、医師会・衛生組合その他公私団体の助力奮励を促し、^{あいていせい}相提撕して全力を予防撲滅に致し、速に^{そうめつ}剿滅の功を収められたき旨、特に其筋より通牒の次第もこれあり候条、充分ご配意相成りたく候也

ここでは、県の取り組みとして、施設の充実化をあげるとともに、県民および医師会、地域ごとの衛生組合等の団体への働きかけに言及しています。そして全力で伝染病の「予防撲滅」に取り組み、剿滅(ほろぼしつくす)させたいとする通達の内容が伝えられています。

2点の資料から読み取れる100年以上前の伝染病予防の取り組みには、今の新型コロナウイルス感染症対策と似ているところも違うところもあります。伝染病を予防しようとしていたのは、古和釜区や豊富村の人たちだけではありませんから、他にも資料はあるはずです。今後も資料の調査・研究を進め、船橋市域における行政・住民それぞれの伝染病予防の取り組みの歴史を、市民の皆様にお伝えしたいと考えています。(小田 真裕)

【参考文献・資料】

- ※1『千葉県の歴史通史編近現代1』(千葉県、平成14年)
- ※2『千葉市史史料編10近代1』(千葉市、令和3年)
- ※資料1は古和釜町会文書、資料2は八木ヶ谷岩浅家文書(いずれも郷土資料館収蔵)
- ※本稿作成にあたり、千葉県文書館・鎌ヶ谷市郷土資料館・千葉市立郷土博物館からご教示を受けました。末筆ながら、御礼申し上げます。

インフォメーション

※両館の行事の詳細は、毎月1日号の『広報ふなばし』でお知らせいたします。

※日程・内容に変更が生じる場合がございます。最新の情報は、両館のホームページをご確認いただくか、直接両館にお問い合わせください。

郷土資料館

※薬円台公園内のSLの運転席を、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後4時に公開しています。

【令和3年9月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
令和2年度～5月9日(日)	企画展「くらしの道具展 一道具が語るくらしの歴史」	郷土資料館 3階 第2展示室
6月6日(日)	地域史講座「永井荷風と船橋」 ※葛飾公民館と共催	葛飾公民館 (船橋市西船3-6-25-201) 京成線 京成西船駅 徒歩7分



協力：
船橋市華道連盟

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、毎週土曜日・日曜日・祝日の他、小・中学校の夏休み・冬休み・春休み期間中に、小学校4年生から大人向けのワークショップを実施しています。

【令和3年9月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
7月18日(日)～8月29日(日)	第20回縄文コンテンポラリー展	飛ノ台史跡公園博物館



「ふなばし生涯学習チャンネル」では、両館の職員手作りの学習動画を配信しています。➡

ご利用案内・交通案内

郷土資料館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
住 所 船橋市薬円台4-25-19
電 話 047-465-9680
F A X 047-467-1399
Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成線 習志野駅下車徒歩10分
JR 津田沼駅北口から
船橋新京成バス・ちばレインボーバスで
「郷土資料館」下車徒歩2分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入 館 料 一般110円(団体20名以上70円)
児童生徒50円(団体20名以上30円)
市内在住中学生以下 無料
住 所 船橋市海神4-27-2
電 話 047-495-1325
F A X 047-435-7450
Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン
新船橋駅下車徒歩8分
京成本線 海神駅下車徒歩15分
東葉高速線 東海神駅下車徒歩12分
船橋新京成バス
JR 船橋駅北口から建鉄循環
「海神中学校前」下車徒歩1分



休館日カレンダー

4月	5月	6月	7月	8月	9月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

□ は郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館休館日 ※都合により、休館日が変更になる場合があります。